



# 対がん協会報

1部70円(税抜き)

第622号

2015年(平成27年)  
4月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F  
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な内容  
1、2面 2015年度事業計画  
3面 シリーズがん教育⑥  
教育現場支援と教材作り  
4、5面 特集 がん相談ホットライン

## 堅実予算 がん教育など重点

### 日本対がん協会／2015年度事業計画・予算

日本対がん協会は2015年度の事業計画と予算案をまとめ、3月10日に開かれた理事会で承認された。がん教育、専門家・研究支援、患者支援などを重点分野に挙げた。従来からの重点活動であるピンクリボンフェスティバル、リレー・フォー・ライフ、がん検診受診率向上のための活動も引き続き強力に推進する(2面に関連記事)。

14年度は寄付収入4億3000万円をめざしたが、3億4000万円程度にと

どまる見通し。消費税の影響もあって個人の寄付が伸び悩み大口寄付も少なかったことや、企業の寄付・協賛の一部見直しに加え、新規獲得も伸び悩んだことが要因。そのため、15年度は全体では堅実な収支管理を基本に、前年度比マイナスの予算案を作成した。

15年度の予算は経常収益が5億7600万円(前年予算比約8%減)で、経常費用は5億8186万円(同約6%減)。

収益の中で、対がん協会のさまざまな活動を支える資金となる寄付収入については、3億7980万円を見込んだ(同約12%減)。

年々高まる対がん協会への社会的ニーズや、責任に応えるための財政基盤の強化に向けて、長年にわたって築き上げたネットワークの活用や、啓発イベントでの寄付の呼びかけ、税制面での優遇制度の周知などを徹底し、寄付集めについて組織的に取り組む。

#### ◇主な事業◇

#### がん教育基金の活動

14年度は「点から面への展開」に踏み出した。出前授業の計画段階から自治体の健康担当部局や教育委員会、保健所、他校教員など関係者間の連携を図り、研究授業と位置付けた。15年度は、さらに広がりを促し、副教材や教師の手引き作成に取り組む。

禁煙基金は教育基金に統合した。禁煙教室を朝日学生新聞社と共同で年間2回開催する予定。

#### 奨学制度、研究助成

がん専門医をめざす若手医師への奨学制度を引き続き実施する。国立

がん研究センターの人材育成事業との連携策を探る。

米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンターでの1年間の研修には昨年度同様2人の若手医師を派遣する計画。16年度にはシカゴ大でも研修できるように準備を進める。

4年目となるリレー・フォー・ライフの寄付金を元にしたがん研究助成、「プロジェクト未来」も一層の拡充を図る。

#### 新しいがん検診のあり方について、調査、研究を支援する事業

がん検診のあり方検討委員会を再開し、子宮頸がん検診のあり方を検討する。15年度はHPV検査の有効性について、いくつかの研究を分析

し、提言とりまとめを目指す。

#### がん相談

##### がん相談ホットライン

看護師、社会福祉士など17人で祝日、お盆、年末年始を除く毎日、相談に応じている。14年度の相談件数は初めて1万件を超した。相談需要は高い。

##### 医師相談

医師による無料相談は他に例が少ない。各部位ごとにベテランの専門医13名が担当しており、電話による予約受付は開始早々に埋まる状況。15年度は面接と電話を合わせて年間280回、延べ1200人の相談を見込む。

**がん相談ホットライン** 祝日を除く毎日  
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

**医師による面接・電話相談(要予約)**  
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

# ピンクリボン 関西3都でシンポ

## リレー・フォー・ライフ 新規7、計47カ所に

### ピンクリボンフェスティバル

スマイルウオークは、東京、仙台、神戸の3大会、シンポジウム・セミナーは、東京、神戸、大阪、京都の4会場で実施する。京都は日本癌治療学会の要請で市民公開講座として開催する。

シンポ・セミナーでは、乳がんについての最新情報のほか、昨年も好評だった精神腫瘍科医による「心のケア」の講演、参加者の大半を占める女性に関心の高い子宮頸がんや美容などの分野に広げて、一層の充実を図る。

イベント以外では「第11回ピンクリボンデザイン大賞」の作品募集を、5月の母の日からスタートする。また、13年度に始めた啓発映像の制作「ピンクリボンムービーサプライ」は引き続き3本の映像を制作し、病院や検診機関、街頭ビジョンなどで放映し、一般市民に向けて啓発を行う予定。

### リレー・フォー・ライフ

15年度は新規に7カ所で開催予定。一方で14年度に実施した43か所のうち3カ所が休止になる。差し引き47か所での開催となる見通し。年を追って開催地が増えてきたが、急成長に踊り場感が出てきた。全国の実行委員会とともに改めてリレーの意義・原点を確認し、止揚を図る年とする。

そのために、実行委員会のワークショップを開きスキルアップを図ったり、ボランティアのブロックスタッフの中から2人をスタッフパートナーに委嘱したりと運営体制の強化を図り、新たな開催地の開拓にも努める。

### ほほえみ基金の活動

協会オリジナルの乳がん無料検診クーポンの発行は、企業からの協賛を得て継続する。また、13年度から始め

た乳がん患者向けセミナーは15年度も5回程度開催する。内容は最新の医療情報や美容、患者向けの癒しに重点を置いたセミナーなどを検討している。

### 啓発セミナー

#### ①全国巡回がんセミナー

公益法人にふさわしい啓発事業として、全国支部の希望を採り入れて巡回がんセミナーを実施する。3会場での開催を見込んでいる。

#### ②遺贈セミナー

遺産を特定の公益法人などに寄付する遺贈寄付が目ざされている。日本対がん協会への遺贈も増加傾向ある。東京と大阪の2会場で、がん啓発を軸にした「遺贈セミナー」を14年度同様に開催する予定。

### 全国大会、群馬県で初開催

日本対がん協会の提唱による「がん征圧月間」(9月)の中核イベントとなるがん征圧全国大会は、厚生労働省、日本医師会、朝日新聞社などの後援を受けて9月4日に群馬県前橋市で開催する。群馬県開催は初めて。

全国大会ではがん征圧に顕著な功績のあった個人、団体に対して贈呈する「日本対がん協会賞」、特別賞の「朝日がん大賞」を表彰する。がん征圧ポスターは学生を対象にしたデザインコンテストによって制作し、優秀賞受賞者は全国大会で表彰する。

### 世界の対がん組織と連携した国際活動

世界の対がん運動を主導する国際対がん連合(UICC)の活動、世界キャンペーンに引き続き協力する。UICCが定めた世界対がんデー(2月4日)に合わせて、UICC日本委員会とともに、小学生からのがん教育などをテーマに公開シンポジウムや啓発・広報イベントを開催する。

### 厚生労働省からの委託事業

厚生労働省から委託を受けた「がんと診断された時からの相談支援事業」と「がん対策推進総合研究推進事業」の2年目。前者は全国に9カ所ある地域統括相談支援センターの活性化がテーマ(6面に関連記事)。

後者は厚生労働科学研究(がん政策研究)補助金の交付を受けた研究課題の研究代表者と研究分担者が、その成果を①一般に分かりやすく伝える、②関連分野の専門家・がん医療従事者に解説して医療水準の地域間格差をなくす、という二つの目的のために、各地で開催する発表会と研修会をサポートするもの。15年度は、8~10件を予定している(14年度は10件)。

また研究代表者が研究の成果を発表する「厚生労働科学研究 がん政策研究成果発表会」を16年2月に開催する。研究の内容や発表会・研修会の告知は協会のホームページや協会報に掲載し、最新のがん研究について案内する。

### 【新規事業】乳がんリスク層別化について、調査、研究を支援する事業

乳がんのリスクを検証する研究事業。数支部の協力を得て、15年度は目標2万人の受診者を対象に、質問票調査と検診データの追跡と解析を実施する。乳がん検診を基礎にしたコホート研究で、がん登録の前の「検診登録」になり、公衆衛生に資すると期待される。日本乳癌学会、国立がん研究センターがん予防・検診研究センター、乳癌検診学会と連携して進める。

## シリーズがん教育⑥

## 教育現場支援と教材作り

日本女子体育大学准教授 助友裕子(すけとも ひろこ)

日本女子体育大学准教授(公衆衛生学)の助友裕子先生は、前職の国立がん研究センター時代に、小学校高学年向けのがんの教育教材『がんのことをもっと知ろう』の開発に携わった。この教材を使って東京都荒川区や豊島区の小中学校でがんの教育を実践する中で、現場支援の必要性を痛感。2014年3月には、教員向けの『がんのことをもっと知ろう(指導書)』を開発した。現在は保健体育科教員養成の大学で教鞭をとる助友先生に、がん教育を普及させるために重要な、教育現場支援や教材作りについてお話を伺った。

——『がんのことをもっと知ろう』の開発に携わったきっかけは。

6年ほど前、国立がん研究センターがん対策情報センターの片野田耕太先生たちが、子どもたちのための教材作りに取り組む始めようとしていて、当時同センターのリサーチレジデントだった私に「一緒にやってみない」と声をかけていただいたのが最初です。

## 荒川区や豊島区で実践

——元々は家庭用の教材だったとか。

はい。国立がん研究センターが蓄積してきたデータによれば、がん罹患する可能性が高まるのは40代頃から。その子どもたちは小学校高学年ぐらいが多いと考えられるので、子どもたちと保護者が家庭でがんの知識を身につけられるように教材を作りました。とはいえ、ゆくゆくは学校でも使ってもらえるように、教員の知人たちに声をかけて参加してもらい、現場の視点を取り入れました。



がんの教育教材と教員向けの指導書

その後、荒川区や豊島区で他地域に先駆けて教育現場でのがん教育を始めることになり、私たち研究者もさまざまな実践をしました。荒川区は草の根的な取り組み、豊島区はトップダウン型とタイプは違いますが、それぞれに良い所や課題があると感じました。特に豊島区は区ががん対策条例を作って区立のすべての小中学校でがんの教育を推進しているので、今後、国の施策として全国の学校でがんの教育に取り組んでいくうえで、とても参考になると考えました。

## 健康アセスで浮かび上がった課題

——現場支援の必要性を唱えられています。

建設の分野では「環境アセス」という言葉がありますが、公衆衛生の分野でも「健康アセス」という考え方が普及してきています。これは新たな政策などが提案されたとき、それに関係する人たちの健康影響予測評価をして、その政策課題の価値を検討しようとするものです。

そこで、次期がん対策基本計画に、「がんの教育・普及啓発」という項目が加わりそうだという話がちらほら聞こえてきた2011年の秋ごろ、ある自治体でのがん教育の健康影響調査を行いました。

影響が予測される集団として児童・生徒やその家族、教職員、行政、一般市民、(小児)がん患者とその家族を挙げましたが、調査の結果、一番影響が大きいと予測されたのが教職員でした。

小児がん患者やその家族、また家族にがん患者がいる生徒への配慮の問題は、さまざまに議論されていますが、実際にその配慮を引き受けるのは現場の先生たちなんですね。職業別のメンタルヘルスの調査でも、教師は初めて診断されてから休職するまでの期間がすごく短いのです。ずっと一人で抱え込んでしまっている人が多い。これは見過ごせないなと強く感じました。



——2014年には教員向けの指導書を作られました

何とか現場の先生方の負担を少なくできないかと考えて、厚生労働科学研究費を得て教員向けの指導書を作りました。編集委員には研究者以外に小学校長経験者や栄養教諭、養護教諭などにも入ってもらい、国内外で実践された授業の事例や指導案を参考にしました。授業の際にすぐ使えるツールが欲しいという切実な声が多かったので、副読本の見開きごとに「指導のねらい」や「発問例」「板書例」までつけて、授業をする際の「虎の巻」になっています。——現在は保健体育科教員の養成にも携わっていますが、養成課程でがんの知識を学ぶ機会が無いそうですね。

養成課程には全く入っていません。なので、私は着任してから「衛生学・公衆衛生学」と「保健体育科教育法」という授業の中でがんの知識をしっかりと教えています。「保健が教えられない体育教師」とずっと言われてきまして、養成校としてはジレンマですが、若い教師の中では積極的に保健を教えようという人も増えてきていますので、見通しは明るいと思います。

——最後に対がん協会に期待することを教えてください。

ホームページで各地の学校での実践例を指導案付で紹介してもらえるととても助かります。また、クイズ形式でインタラクティブにがんについて学べるようなページを設けたり、どこに行けば必要な情報が手に入るかのガイドがあったりといった、ネット時代ならではの情報提供の場を作ってもらえると嬉しいです。

(聞き手 日本対がん協会 本橋美枝)

# がん相談ホットライン信頼重ねて9年

2006年4月にスタートした「がん相談ホットライン」の2014年度の相談件数が、10000件を超えた。

日本対がん協会では早くから相談事業に取り組み、医師による面接相談や電話相談を実施してきた。その中で経済的な心配や就労の悩み、不安な気持ちを聞いて欲しいといった、医師だけではカバーできないような相談が目立つようになった。そこで患者本人や家族のこのような悩みをどうサポートできるかを考えて誕生したのが、看護師と社会福祉士による電話相談「がん相談ホットライン」だ。

開設時は1回線で、受付時間も火曜から金曜の数時間だったが、患者さんからの強い要望もあり、個人や協賛企業の幅広い寄付に支えられて相談体制を拡充させてきた。現在は祝日、年末年始を除く毎日10:00~18:00まで、昼間ならいつでも相談を受けられる体制を整えている。

相談員は現在17人、医療関係の国家資格を持ち、経験豊かな相談員が対応している。相談業務が終了した後はグループでの事例検討や情報共有を欠かさず行い、それ以外にも継続的な研修を行うなどして質の高い電話相談に結び付けている。

2015年度が開始するにあたり、相談員全員にメッセージを寄せてもらった。

## がん相談ホットラインの理念

『日本対がん協会がん相談ホットラインは、相談者の言葉に耳を傾け、相談者が次の一步を踏み出せるような支援を目指します。』

## がん相談ホットラインの使命

- ▶相談者が困っていることは何かを一緒に考えます。
- ▶相談者の思いや考え、価値観などその人らしさを尊重します。
- ▶相談者にとって必要で、信頼できる情報を提供します。
- ▶相談者が問題解決できるための行動を具体的に提示します。

17人の相談員の皆さんからは2つの質問の内1つを選んでの答えと、相談者へのメッセージを寄せてもらいました。

**質問①** 相談員をしていて良かったと思った事(時)

**質問②** 私の元気のチャージ法

### 質問②

美味しいスイーツを食べること。海や富士山を眺めながらウォーキングすること。

### 相談者への思い

つらい気持ちや不安を吐き出して、落ち込んでいる気持ちを軽くして欲しい。

### 質問①

相談者が気持ちを吐露され、心が少し穏やかになられた様子を感じた時や、ご自分の持っている力に気付かれた時。

### 相談者への思い

暗闇の中にいるような不安や孤独な時、夜道をそっと照らす月明かりのような存在でいたいと思っています。

### 質問①

相談者のこわばった声が少しずつほぐれていくのを感じた時、少しお役に立てたかもと、うれしくなります。

### 相談者への思い

相談者の心の痛みが少しやわらぐよう、ご自分らしい選択ができるようお願いしながら、お話を聞いています。

### 質問②

愛猫をお腹の上に乗せマッサージチェアでマッサージをしながら、うたた寝すると元気がでます。

### 相談者への思い

「たゆまざる歩み恐ろしかたつむり」という北村西望の句があります。毎日、一歩一歩ゆっくり前に進みましょう

### 質問①

相談者の思いに寄りそうことで、自分が気付いていなかった事を学び、自己の成長につながっている事に感謝!

### 相談者への思い

心配な事、辛い事などちょっと勇気を出して話してみましょ。聞いてもらうだけで気持ちが軽くなります。

### 質問①

ご遺族になられた方からのお電話。今までとても良く看護をしてましたね。わかってますよ。お疲れ様でしたね。

### 相談者への思い

がんになった事は大変なことです。正しい情報を集めて、医療者を信頼して、家族と協力して生き続けましょう。

### 質問①

相談者との会話の中で「他に話せる人がいない、お話できて良かった」という様な言葉を聞いた時に思います。

### 相談者への思い

心の器に思いがいっぱいになったら、一度吐き出して空っぽにしてもいいのではありませんか?お待ちしております。

### 質問①

相談者の声の急に明るくなり、すっきりしていなかった事がようやく分かりましたと言われた時は嬉しいです。

### 相談者への思い

希望を忘れないで下さい。それがあれば、どんな困難にも負けません。私達はいつも応援しています。

### 質問①

「今日は勇気をふりしぼって電話をかけました」と云われた時、「ありがとう」の気持ちでいっぱいになりました。

### 相談者への思い

相談者の方との出会いを一期一会と思い、少しでもお力に添えるよう努めてまいります。

### 質問①

相談者を通して、想像する力が増した。見えない相手を察することで受け止め伝えることがより可能になった。

### 相談者への思い

皆様のご相談にどれだけ応えられているかとの不安は拭えません。確かな事は支え合っているという実感です。

### 質問②

楽しいと感じることをすること、食べることを動かすこと、旅にでること、素敵な絵を見ること、桜の季節

### 相談者への思い

がんという病であってもそれだけにとらわれなくて、ご自分らしい生き方ができればと願っています。

### 質問②

“フラ”それが私の気分転換。曲の中の鮮やかな花を眺め、ハワイの風になる。汗をかいて、心も体もスッキリ。

### 相談者への思い

会話が持つ力…情報伝達・気持ちの解放や整理・新しい気付き。そんな大きなメリットを相談者と共有したい。

### 質問①

患者・家族には不安な気持ちを誰にも話せず困っている中、ホットラインを利用しゆっくり話を聞いてもらい安心したという場面

### 相談者への思い

電話をかけていることに、躊躇されている方すべてに対して、勇気を出してホットラインに繋がって欲しい。

### 質問①

不安な様子で話し始めた相談者が、相談の過程で徐々に安心感を持たれていくのを感じる時。

### 相談者への思い

辛いときは一人で抱え込まないで、相談員にお気持ちをきかせてください。

### 質問②

登山が私の元気の素です。どこまでも続く稜線を眺めたり、風に触れていると、ただただ幸せを感じます。

### 相談者への思い

相談者がその人らしくがんにつきあっていける様に、日々私にできるベストを尽くす様にしています。

### 質問①

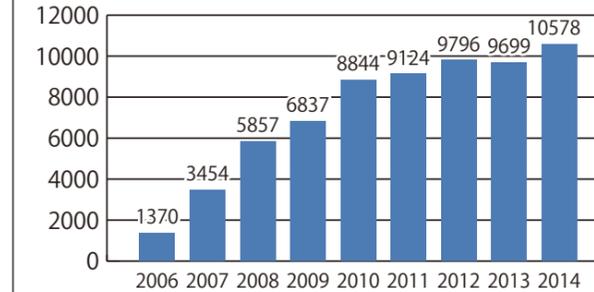
電話を通してでも相談者との間に分かり合えたような心のふれ合いを感じる瞬間があり、そういう時に思います。

### 相談者への思い

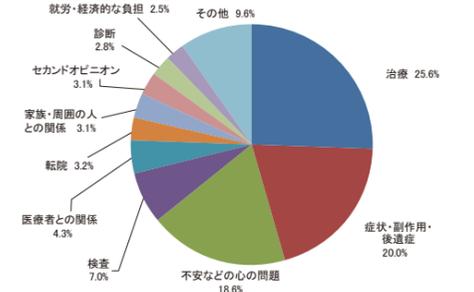
相談者の気持ちに寄り添い、相談者が次の一歩を踏み出すために、少しでも役に立てればと思っています。

# 年間相談件数10000件以上に

## 年度別相談件数



## 相談の内容(2013年度集計データ)



相談の内容は、「治療」に関する相談が最も多く、次に「症状・副作用・後遺症」、「不安などの心の問題」と続きます。「不安などの心の問題」は増加傾向にあり、「誰にも話せない」「話を聞いてもらえますか」という言葉で始まる相談もあります。様々な相談が寄せられますが、一つの相談に複数の問題が絡んでいる場合が多く、まずは相談者の声に耳を傾け、気持ちを受け止めるよう努め、「がん相談ホットラインの使命」(左ページ掲載)に基づいた対応を心掛けています。 ※主たる内容のみを集計している。



### 質問②

何も考えなくて頭を休める事が出来るように、単純に笑えるような海外ドラマを一気に見る事です。

### 相談者への思い

いつも心に添って、その方の視線で、一緒に困り事を考えていくという姿勢でいます。

### 質問②

登山が私の元気の素です。どこまでも続く稜線を眺めたり、風に触れていると、ただただ幸せを感じます。

### 相談者への思い

相談者がその人らしくがんにつきあっていける様に、日々私にできるベストを尽くす様にしています。

### 質問①

電話を通してでも相談者との間に分かり合えたような心のふれ合いを感じる瞬間があり、そういう時に思います。

### 相談者への思い

相談者の気持ちに寄り添い、相談者が次の一歩を踏み出すために、少しでも役に立てればと思っています。

## Topics

## 平成26年度厚生労働省委託事業 「がんと診断された時からの相談支援事業」 報告書がまとまる

国内では年間80万人ががんと診断される時代。がん患者や家族の様々な悩みを総合的にサポートする体制づくりが求められている。厚生労働省は全国約400のがん診療連携拠点病院にがん相談支援センターを設けるほか、がん経験者が支援するピアサポートの拡充などに尽力してきた。

そうしたがん患者サポート体制整備



調査結果をまとめた報告書

の一環として、厚労省が2011年度から新たに開始したのが「地域統括相談支援センター」事業だ。これは、各地でがん相談にかかわる機関や人々の連携を図ることが目的で、がん患者や家族の悩みが医療だけでなく、就労や介護、教育など多岐にわたってきていることに応える仕組み作りを支援することも目指している。

一方で、2013年度までに「地域統括相談支援センター」が設けられているのはまだ9県。厚労省は2014年度、この「地域統括相談支援センター」の活性化と普及を図るため、「がんと診断された時からの相談支援事業」を日本対がん協会に委託した。

1年目である昨年度は、がん相談や普及啓発に関わる医療者や患者、家族の方々による「がんと診断された時

からの相談支援検討委員会」をつくり、先行9地域の訪問調査を実施した。また富山県と宮城県では、患者・家族やがん相談に携わる方々、行政関係者らに集まってもらい、その地域のがん相談を考える意見交換会を実施した。

また委員会の検討による活動とは別に、日本対がん協会は独自にがん相談ホットラインなど病院以外に置かれた電話相談の相談内容の分析調査を行い、がん患者・家族のがん相談への認知度や期待度等を調べた。

これらの調査結果は報告書にまとめられ、全国のがん診療連携拠点病院や行政のがん対策部門などに配布される。委託事業は今年度も継続する。お問い合わせ：厚生労働省委託事業がん相談支援室 電話03-5218-6051

## 延べ206名が受講 2014年度も各種研修会を実施

日本対がん協会は専門家向けの支援事業として、各種の研修会を主催している。2014年度も2月から3月にかけて、4つの研修会を開催した。専門家向けではあるが、検診業務に役立つ情報等を提供するための場として、各支部の職員だけでなく一般からも募集を行い、今年度は延べ206名が受講した。

### 乳房超音波技術講習会

公益財団法人結核予防会、NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構(精中機構)との共催で、2月7日、8日に東京都清瀬市の結核予防会結核研究所で実施した。今回で5回目となり、乳房超音波検査に携わった経験者48名が参加した。実際に乳房超音波装置を使った実技講習も行い、更なる技術の向上を目指した。講義・実習を終えた受講生は、精中機構が実施する認定試験を受けた。

### 保健師看護師研修会

2月26日から27日にかけて東京・千代田区の有楽町朝日スクエアで開催。今回で38回目を数える。各支部、自治体、関連団体等に所属するがん検診に携わる保健師・看護師・事務員等67名が参加した。同じ悩みを持つもの同士、参考になる情報や意見を交換し合い、「施設に持ち帰り、早速取り組みたい」といった意欲的な声が多かった。

### 診療放射線技師研修会

3月12日から14日に東京都清瀬市の結核予防会結核研究所で実施(公益財団法人結核予防会と共催)。44名が参加した。著名な講師による講義の他、グループ討論も行われた。受講生が持参したフィルムの評価では、リー



診療放射線技師研修会(フィルム評価の様子)

ダーによる熱心な指導がなされた。

### マンモグラフィ撮影技術講習会

2014年度の研修会の最後を締めくくるマンモグラフィ講習会は、今回で21回目となる。精中機構と共催で、3月20日から22日に東京都江東区のがん研究会交流センターにて実施。47名が参加した。技師として精度の高い乳がん検診に貢献できる知識・技術を取得するため、受講生は講義も実習も真剣に取り組み、修了後に精中機構が実施する認定試験を受けた。

## Topics

## ヒット1本につき1万円

## 東北楽天ゴールデンイーグルス 嶋基宏選手がピンクリボンフェスに寄付



支援を発表した嶋基宏選手

今年度も4月1日から本格的に始動するピンクリボンフェスティバルに、嬉しいニュースが舞い込んだ。東北楽天ゴールデンイーグルスで活躍してい

る嶋基宏選手が、今シーズンのヒット1本につき1万円の支援金をピンクリボンフェスティバル仙台へ贈ってくれたことになった。

このニュースは3月31日の開幕戦を控えた30日に楽天野球団(本社:宮城県仙台市)が発表。嶋選手は「被災地の方々への支援は今まで通りさせていただきますが、僕も子どもを持って母親の大事さが身に染みてわかったし、僕のタオルカラーがピンクということもあり、あわせて何かできないかと考え、ピンクリボンフェスティバルへの

支援を決めました」とコメントを寄せた。

今年度は10月31日に勾当台公園市民広場でスマイルウオーク仙台大会を開催予定。例年、出発式で楽天のチアチーム・東北ゴールデンエンジェルスがパフォーマンスを披露してくれている。地元球団挙げてのピンクリボンフェスティバル支援に感謝するとともに、「1本でも多くのヒットを打って、寄付をしていけたらいいな」と意欲満々の嶋選手の、一層の活躍を期待して応援したい。

## はい座布団一枚!



## 鹿児島支部から

## 保健師の集中配属で進むタテ割り解消

公益財団法人鹿児島県民総合保健センター健康増進部健康支援課  
課長 山本聖子

当センターでは昨年4月から新たに健康増進部(健康支援課・健康管理課)を設置して保健師19人を1ヵ所に集めた。まもなく1年が経とうとしている。それまでは3部に分散配属され、それぞれが同じような業務をしていた。それが集中配属されたことで、情報共有したり相談したりできるようになり、仕事の効率化が進んだ。それまでは時期によっては疲労困憊していた保健師たちに余裕が生まれ、センター全体の風通しも良くなっている。

集中配属による最も大きな変化は、県内43市町村や約10の大手事業所の

担当制が機能し始めたことと、保健師同士の「共有」効果により、仕事の中身がより確かで精度の高いものになってきた点だ。

例えば特定保健指導の場合、市町村・事業所・人間ドックの対象者をそれぞれの課で担当していたが、使っている資料は別々で良い点を共有できなかった。今は、常に部内で検討を加えながら各種検診結果やがん検診追跡結果等をデータ化。市町村へ提供したり打ち合わせに同行したりすることで、相手先の保健師との連携も深まり、お互いの満足度を上げることができた。

今回の健康増進部誕生は部内の仕事の効率化だけに止まらず、胃や胸、乳房・子宮など部位別で業務も縦割りになっていた検診部門をはじめ、センター全体のタテ割り解消を後押ししている。

対がん活動はまさに、官民一体となり力を合わせて行う事業。分散配置ではややもするとかき消され気味だった保健師の声・活動が、集中配属された結果、何倍も大きくなった。今後とも変化を恐れずに、皆で勇気をもって、知恵を絞りながら諸課題に立ち向かっていきたい。

(やまもと・せいこ 1981年鹿児島県立保健師学校卒業、市町村保健師として3年間勤務した後、84年鹿児島県成人病予防協会に就職。86年現鹿児島県民総合保健センターが開設され、現在に至る)



お揃いのピンクのユニフォームで啓発活動

統計

## 主ながん部位別の75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)都道府県別順位(2013年) ②

国立がん研究センターがん対策情報センターのホームページより

順位	大腸 男		大腸 女		肝・肝内胆管 男		肝・肝内胆管 女		膵 男		膵 女		乳房 女		子宮	
	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値
1	香川県	10.1	香川県	5.7	新潟県	5.9	新潟県	1.3	徳島県	5.0	沖縄県	3.9	長野県	7.1	滋賀県	3.0
2	滋賀県	10.7	鳥取県	5.7	福井県	6.3	秋田県	1.4	岩手県	6.9	熊本県	4.0	島根県	7.8	大分県	3.4
3	岐阜県	10.9	愛媛県	5.9	三重県	7.3	岩手県	1.5	福井県	7.4	福井県	4.2	富山県	8.0	岩手県	3.4
4	富山県	11.2	大分県	6.0	山形県	7.5	山形県	1.6	岡山県	7.4	群馬県	4.3	岐阜県	8.1	和歌山県	3.4
5	佐賀県	11.2	熊本県	6.0	埼玉県	7.6	沖縄県	1.7	高知県	7.6	広島県	4.3	岩手県	8.2	山梨県	3.6
6	岡山県	11.2	奈良県	6.2	秋田県	7.6	東京都	1.8	栃木県	7.7	島根県	4.4	福井県	8.2	三重県	3.7
7	熊本県	11.4	島根県	6.3	長野県	7.9	岐阜県	1.8	群馬県	7.8	佐賀県	4.4	香川県	8.5	愛媛県	3.8
8	宮崎県	11.7	福井県	6.4	千葉県	8.2	宮城県	1.9	沖縄県	7.8	岡山県	4.4	福島県	8.6	広島県	3.9
9	長野県	11.7	長野県	6.6	福島県	8.3	神奈川県	1.9	石川県	8.0	千葉県	4.4	広島県	8.7	奈良県	3.9
10	三重県	11.7	山形県	6.6	神奈川県	8.3	福島県	2.0	三重県	8.0	長野県	4.5	大分県	8.9	石川県	4.0
11	福井県	11.8	富山県	6.8	岐阜県	8.3	三重県	2.0	広島県	8.1	神奈川県	4.5	宮崎県	8.9	新潟県	4.0
12	奈良県	11.9	宮城県	6.8	愛知県	8.4	埼玉県	2.1	神奈川県	8.2	鹿児島県	4.5	奈良県	9.1	富山県	4.0
13	京都府	12.0	岡山県	6.9	滋賀県	8.5	愛知県	2.1	鹿児島県	8.3	大分県	4.5	和歌山県	9.1	岡山県	4.1
14	山梨県	12.2	鹿児島県	6.9	島根県	8.5	滋賀県	2.2	奈良県	8.3	福岡県	4.6	兵庫県	9.2	福島県	4.2
15	和歌山県	12.2	滋賀県	7.1	宮城県	8.6	香川県	2.2	山形県	8.5	岩手県	4.7	徳島県	9.2	香川県	4.2
16	徳島県	12.3	新潟県	7.1	東京都	8.6	長野県	2.3	大分県	8.5	埼玉県	4.7	石川県	9.3	熊本県	4.2
17	愛媛県	12.5	愛知県	7.2	群馬県	8.8	徳島県	2.3	福島県	8.7	鳥取県	4.7	愛媛県	9.4	兵庫県	4.2
18	広島県	12.9	広島県	7.2	石川県	8.8	千葉県	2.3	長崎県	8.8	富山県	4.7	愛知県	9.7	大阪府	4.2
19	兵庫県	12.9	山口県	7.3	沖縄県	8.9	和歌山県	2.4	岐阜県	8.8	香川県	4.8	滋賀県	9.7	宮城県	4.3
20	新潟県	13.0	宮崎県	7.3	香川県	8.9	茨城県	2.5	千葉県	8.9	愛知県	5.0	三重県	10.0	東京都	4.3
21	島根県	13.0	千葉県	7.3	和歌山県	9.1	鳥取県	2.5	山口県	9.0	愛媛県	5.0	京都府	10.0	長崎県	4.3
22	宮城県	13.0	茨城県	7.3	静岡県	9.3	大分県	2.6	東京都	9.0	滋賀県	5.0	山口県	10.2	福井県	4.4
23	栃木県	13.0	佐賀県	7.4	岩手県	9.3	静岡県	2.6	新潟県	9.0	山口県	5.1	高知県	10.2	栃木県	4.4
24	千葉県	13.1	京都府	7.5	奈良県	9.4	鹿児島県	2.6	鳥取県	9.0	宮崎県	5.1	栃木県	10.3	群馬県	4.4
25	石川県	13.1	秋田県	7.6	富山県	9.4	北海道	2.6	兵庫県	9.0	徳島県	5.1	鳥取県	10.4	長野県	4.4
26	山形県	13.1	大阪府	7.6	岡山県	9.6	京都府	2.7	愛媛県	9.1	岐阜県	5.1	鹿児島県	10.5	島根県	4.5
27	大分県	13.2	石川県	7.6	栃木県	9.9	島根県	2.7	香川県	9.1	山梨県	5.1	秋田県	10.5	神奈川県	4.5
28	長崎県	13.2	埼玉県	7.7	茨城県	9.9	岡山県	2.7	山梨県	9.1	福島県	5.2	福岡県	10.6	北海道	4.5
29	静岡県	13.2	東京都	7.8	京都府	10.1	富山県	2.7	埼玉県	9.1	茨城県	5.3	茨城県	10.6	千葉県	4.6
30	福島県	13.3	静岡県	7.9	大分県	10.3	山口県	2.8	愛知県	9.3	京都府	5.3	熊本県	10.6	山形県	4.6
31	埼玉県	13.4	長崎県	8.0	高知県	10.4	大阪府	2.9	静岡県	9.3	新潟県	5.3	静岡県	10.7	秋田県	4.7
32	山口県	13.4	山梨県	8.1	北海道	10.4	石川県	3.0	滋賀県	9.4	三重県	5.4	沖縄県	10.9	愛知県	4.7
33	秋田県	13.6	福島県	8.1	山梨県	10.6	群馬県	3.1	宮城県	9.4	石川県	5.4	大阪府	11.0	山口県	4.8
34	茨城県	13.7	岐阜県	8.1	宮崎県	10.7	兵庫県	3.1	富山県	9.5	栃木県	5.4	佐賀県	11.1	静岡県	4.9
35	大阪府	13.9	神奈川県	8.1	兵庫県	11.1	愛媛県	3.1	青森県	9.5	大阪府	5.5	宮城県	11.1	徳島県	5.0
36	愛知県	13.9	岩手県	8.1	熊本県	11.2	奈良県	3.2	北海道	9.6	青森県	5.6	山形県	11.1	京都府	5.0
37	群馬県	13.9	群馬県	8.1	大阪府	11.6	長崎県	3.2	熊本県	9.6	秋田県	5.6	千葉県	11.2	福岡県	5.0
38	神奈川県	13.9	徳島県	8.2	山口県	12.2	佐賀県	3.3	島根県	9.6	東京都	5.7	埼玉県	11.4	高知県	5.1
39	北海道	14.0	高知県	8.3	広島県	12.6	宮崎県	3.3	長野県	9.7	奈良県	5.7	群馬県	11.7	鹿児島県	5.4
40	福岡県	14.0	福岡県	8.3	青森県	12.7	福井県	3.3	茨城県	9.7	兵庫県	5.9	東京都	11.8	埼玉県	5.5
41	東京都	14.5	三重県	8.4	鹿児島県	12.7	熊本県	3.4	和歌山県	9.8	静岡県	5.9	岡山県	11.8	佐賀県	5.6
42	鹿児島県	14.8	北海道	8.5	徳島県	13.2	広島県	3.5	大阪府	9.8	高知県	6.1	山梨県	11.9	岐阜県	5.6
43	沖縄県	15.7	栃木県	8.6	長崎県	13.2	山梨県	3.6	佐賀県	9.9	北海道	6.1	北海道	12.6	茨城県	5.6
44	岩手県	15.8	和歌山県	8.8	福岡県	13.5	高知県	3.6	福岡県	10.1	宮城県	6.2	長崎県	12.7	青森県	6.1
45	高知県	16.1	兵庫県	9.0	鳥取県	13.5	栃木県	3.7	京都府	10.2	山形県	6.5	神奈川県	13.1	沖縄県	6.4
46	鳥取県	16.5	沖縄県	9.1	愛媛県	13.8	青森県	3.8	宮崎県	10.3	長崎県	6.8	新潟県	13.4	鳥取県	6.4
47	青森県	17.8	青森県	9.7	佐賀県	15.3	福岡県	3.9	秋田県	10.3	和歌山県	7.0	青森県	13.9	宮崎県	6.5
全国平均		13.1		7.5		9.9		2.6		8.8		5.1		10.2		4.6